

# 2019年3月期第2四半期 決算説明資料

2018年11月8日（木）  
株式会社 **力ネ力**

# 目 次

---

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
事業概況	4
貸借対照表	8
キャッシュ・フロー計算書	9
業績予想	10

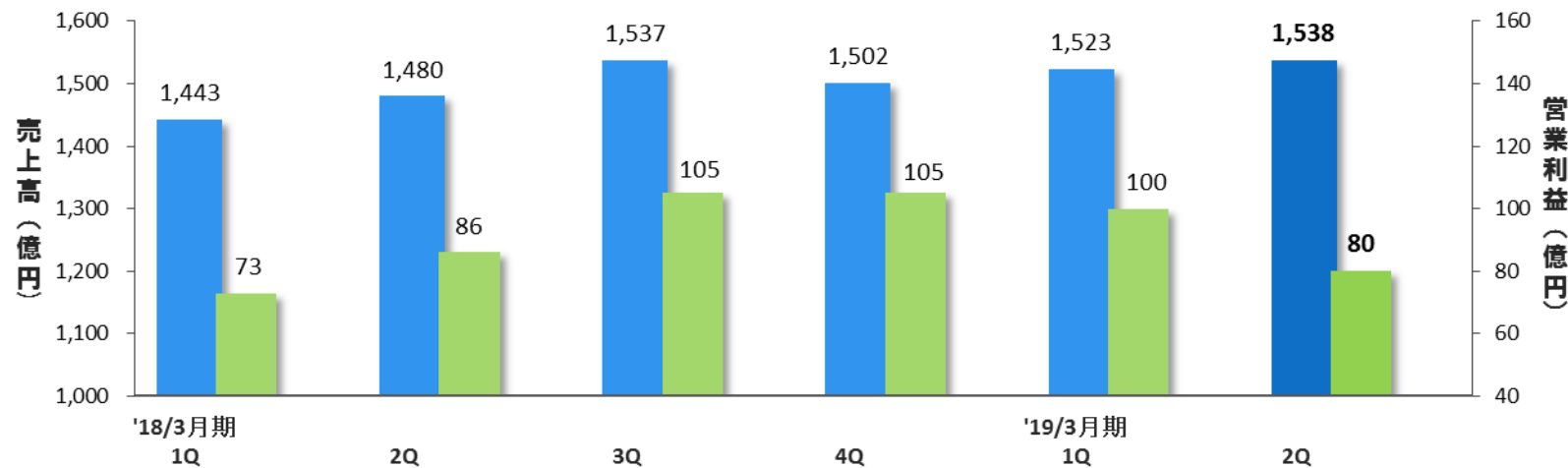
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%
売上高	2,923	3,061	138	4.7%
営業利益	159	180	21	13.5%
経常利益	145	159	15	10.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	96	107	11	11.1%
<b>1株当たり四半期純利益</b>	<b>146.07円</b>	<b>163.00円</b>		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり四半期純利益は、株式併合後の株式数で算出しております。

- 売上高は、上半期として過去最高を更新
- 営業利益、経常利益、純利益はいずれも2桁の増益
- 生産能力増強を進めた重点注力事業群がグローバルに拡大し、成長を牽引



(単位：億円)	2018年3月期				2019年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
<b>売上高</b>	1,443	1,480	1,537	1,502	1,523	1,538
<b>営業利益</b>	73	86	105	105	100	80

- 2Qの売上高は、4四半期連続で1,500億円超となった
- 営業利益は、地震や台風被害等の自然災害による一時的な影響を受けたが、重点的に注力して強化に取り組んでいる事業群が順調に推移

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計	増減		2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	115,472	124,391	8,918	7.7%	12,248	14,189	1,940	15.8%
Quality of Life SU	74,623	78,883	4,259	5.7%	6,853	7,628	774	11.3%
Health Care SU	21,675	23,680	2,004	9.2%	4,228	4,673	444	10.5%
Nutrition SU	79,857	78,546	△1,310	△1.6%	2,549	2,173	△376	△14.8%
その他	628	551	△77	△12.3%	339	258	△80	△23.8%
調整額	-	-	-	-	△ 10,340	△ 10,906	△565	-
計	292,258	306,053	13,795	4.7%	15,879	18,016	2,137	13.5%

※SU : Solutions Unit

<b>Material</b>	Vinyls and Chlor-Alkaliは塩化ビニル樹脂・か性ソーダが国内外ともに好調な販売、Performance Polymersはグローバルで進めている生産能力増強が寄与し、販売が拡大
<b>Quality of Life</b>	E & I Technologyはスマートフォン高機能化により需要量が増加しており好調な販売、Performance Fibersはアフリカ市場における頭髮分野の需要が本格的に回復、Foam & Residential Techsは台風・地震などの影響を受けた
<b>Health Care</b>	Medical Devicesは海外市場での拡販が国内における償還価格改定の影響をカバー、Pharmaはバイオ医薬品の販売が堅調に推移
<b>Nutrition</b>	Foods & Agrisは製パン市場が低迷するなか提案型営業により需要喚起を進めた、Supplemental Nutritionは還元型コエンザイムQ10の販売が引き続き増加

売上高

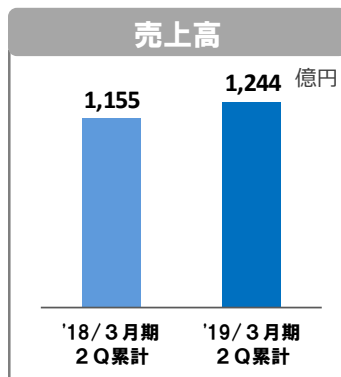
1,244億円 (対前年同期 7.7%増)

売上高構成比

40.6%

営業利益

142億円 (対前年同期 15.8%増)

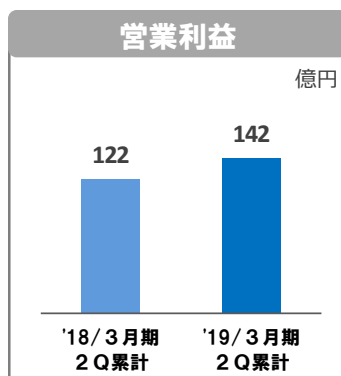


## Vinyls and Chlor-Alkali

- ・ 塩化ビニル樹脂及びか性ソーダの販売が、国内外とも好調
- ・ 塩ビペースト樹脂などの塩ビ系特殊樹脂は国内の販売が堅調に推移
- ・ 今後、原料価格高騰に対する販売価格転嫁を進めていく

## Performance Polymers

- ・ モディファイヤーは、非塩ビ向けなどの用途拡大が進み、アジア市場での旺盛な需要に応じて好調な販売、昨年稼働したマレーシアの第2系列も寄与
- ・ 変成シリコンポリマーも、世界オンリーワンプロダクトとして需要がグローバルに拡大しているなか、マレーシア新設備が本格的に寄与し、販売が大きく伸びた。本年末にはベルギーでの能力増強が完成し、旺盛な需要に応じていく
- ・ ユニークなソリューション素材であるエポキシマスターバッチは、自動車向け構造用接着剤での採用が増加、需要の拡大期を迎えており、早期に能力増強を決定する準備中



## 新規事業

- ・ 能力増強を決定した生分解性ポリマー-PHBHは、欧米市場で使い捨てプラスチックの規制が強化されるなか、果物・野菜袋用途での採用が進んでいる。海水中でも生分解する素材であり、社会的な問題となっているマイクロプラスチック問題へのソリューションとして市場開発を進めていく
- ・ 生産設備を新設したプリプレグを航空機・宇宙産業向け次世代先端技術素材として、スピード感を持って事業展開を進めていく

売上高

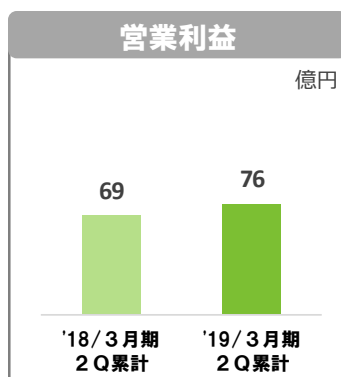
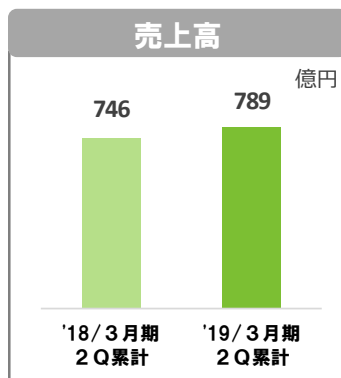
789億円 (対前年同期 5.7%増)

売上高構成比

25.8%

営業利益

76億円 (対前年同期 11.3%増)



## E & I Technology

- 超耐熱ポリイミドフィルムは、スマートフォンの高機能化に伴い需要量が増加しており、好調な販売
- ディスプレイ向け光学用途などポリイミド新製品の市場が拡大
- 有機ELディスプレイや無線充電などのスマートフォンの高機能化や小型化に伴う飛躍的な需要拡大に対応するため、超高熱伝導グラファイトシート及びその原料である超耐熱ポリイミドフィルム有能力増強を決定、原料から製品まで一貫生産する唯一のメーカーとしての強みを更に高め、事業の拡大を進めていく

## Performance Fibers

- アフリカ市場における頭髮分野の需要が本格的に回復してきている
- 高性能頭髮としてのブランド力を強化し、アフリカ及びその他市場での更なる需要開拓を進めている
- 難燃分野は欧米での作業服向け需要が旺盛であり、販売が拡大

## Foam & Residential Techs

- 台風、地震などの影響による漁獲量減少、土木・建築工事遅れに伴う需要低迷のなか、販売が拡大
- 原料価格高騰に対する販売価格転嫁とコストダウンを引き続き進めていく
- ビーズ法発泡ポリオレフィン、自動車分野などの需要拡大に対し、タイ工場の立ち上げ、ベルギーでの能力増強などグローバルな供給体制強化を進めている

## PV & Energy management

- 高効率太陽電池新製品の販売が拡大し、構造改革の進展と合わせ収益力が改善
- 窓や壁が発電するユニークな太陽電池を、住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として展開している
- 世界的なエネルギー問題に対するソリューション事業として強化していく

売上高

237億円 (対前年同期 9.2%増)

売上高構成比

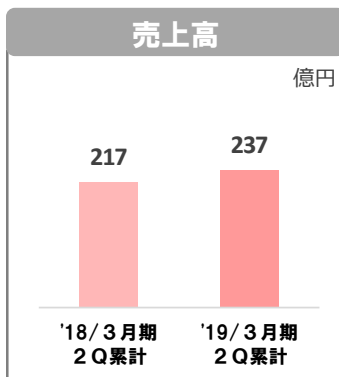
7.7%

営業利益

47億円 (対前年同期 10.5%増)

## 売上高

億円



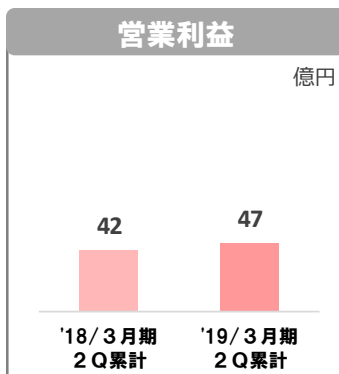
## Medical Devices

- ・ 高性能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品の販売が順調に進んだ
- ・ 海外市場での販売拡大が、国内における償還価格改定の影響をカバー
- ・ 薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルなどの新規医療領域、中南米など新地域への拡販を進めていく

## Pharma

## 営業利益

億円



- ・ カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売が堅調に推移  
生産能力増強工事は計画通りに進んでいる
- ・ カネカシンガポール及び大阪合成有機化学研究所に導入したAPI・中間体製造用途の連続生産設備は市場評価も高く拡販に寄与  
低分子医薬品分野の事業強化の軸となる新技術であり、Pharma分野での総合的な事業拡大を加速させる



売上高

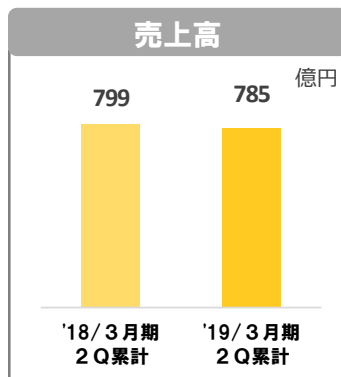
785億円 (対前年同期 1.6%減)

売上高構成比

25.7%

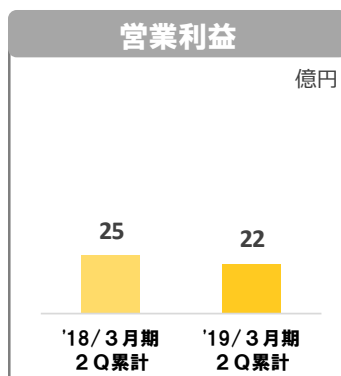
営業利益

22億円 (対前年同期 14.8%減)



## Foods & Agris

- ・ 製パン市場の低迷が継続するなか、大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業による需要喚起を進めた
- ・ インドネシア事業は順調に拡大しており、大型の生産能力増強の準備を進めている
- ・ 新たに参入した乳製品事業では、牛乳に加えて発酵バターの販売を開始  
ヨーグルトなど新たな乳製品のラインアップを充実させ、市場開発を加速させる  
更に食料生産支援事業と組み合わせて、酪農家の生産性向上や循環型酪農の発展に貢献する施策を計画中



## Supplemental Nutrition

- ・ 主力の還元型コエンザイムQ10の販売が米国市場を中心に引き続き増加
- ・ 今般グループ化したスペインの乳酸菌会社を活用して、サプリメント素材の品揃えを増やし、グローバルに乳酸菌・サプリメント事業を拡大していく

(単位：億円)

	2018年3月末	2018年9月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,063	3,173	110
固定資産 等	3,335	3,395	60
資産合計	6,398	6,568	170
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,131	1,188	56
その他	1,800	1,787	△ 13
負債合計	2,932	2,975	43
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,262	3,382	120
非支配株主持分 他	204	211	7
純資産合計	3,466	3,593	127
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,398</b>	<b>6,568</b>	<b>170</b>

- 総資産は、積極的な設備投資継続による有形固定資産の増加や、売上高増加に伴うたな卸資産の増加により増加

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	216	194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 195	△ 220
フリー・キャッシュ・フロー	21	△ 26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 44	16
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 15	△ 10
現金及び現金同等物の四半期末残高	395	464

- 営業CFは、売上拡大により運転資金が増加したが、純利益及び減価償却費により194億円の収入
- 投資CFは、積極的な設備投資の継続により220億円の支出

- 世界経済は、米中の貿易摩擦、米国利上げの影響等、先行き不透明感が高まり世界貿易縮小の懸念も高まっている。IMFが本年10月に2年ぶりに世界経済見通しを引き下げるなど、2008年の金融危機後の景気拡大は局面転換のリスク
- この様な経営環境の中で、当社はR & Dやグローバル展開を更に強化し、足腰の強い新しいポートフォリオ構造への変革を加速していく
- 上半期は自然災害や原料価格上昇など一時的な影響を受けたが、3Q以降は、モディファイヤー、変成シリコンポリマーなど海外拠点で生産能力を増強した事業群の新しい力を最大限に活かして事業を拡大し、グローバル競争力を強化
- 更に、IoT、AI社会の到来により需要が急拡大するE & I、新製品開発が進むHealth CareやSupplemental Nutritionなどの戦略的重点事業の拡大に取り組んでいく
- 以上のことから、連結業績予想に変更はありません

## <2019年3月期連結業績予想>

(単位：億円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	増減
売上高	5,961	6,500	539 (9.0%)
営業利益	369	420	51 (13.9%)
経常利益	328	370	42 (12.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	216	230	14 (6.6%)

【2019年3月期第3四半期以降の前提条件】 為替レート：110円/米ドル、130円/ユーロ 国産ナフサ価格：57,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090